



TITLE:

<現役学生インタビュー>留学生が  
語る、京大公共の魅力

AUTHOR(S):

京都大学公共政策大学院八・九期生留学生一同

---

CITATION:

京都大学公共政策大学院八・九期生留学生一同. <現役学生インタビュー>留学生が語る、京大公共の魅力. 公共空間 2014, 13: 57-58

ISSUE DATE:

2014

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197693>

RIGHT:

## 【現役学生インタビュー】

## 「留学生が語る、京大公共の魅力」

京都大学公共政策大学院八・九期生 留学生一同

屋大学に研究生として在籍し、将来は国際機関で働きたいと考えていたので、『地球共生クルスター』がある京大の公共政策を志望しました。」

京都大学公共政策大学院は、今期で設立九年目を迎え、一般人選抜・社会人ともにさまざまな背景を持つ学生が入学してきた。その中には、海外からの留学生も含まれ、日本人とともに講義・演習を受け、自主活動に励み、本学をより多様性に溢れる大学院にすることの一翼を担ってきた。今回は「留学生が語る、京大公共の魅力」と題し、現在在籍している留学生にスポットライトを当て、ざつくばらんに取材を行った。本取材に協力して頂いたのは、八期生の陶暁青さん（中国）、柳恩智さん（韓国）、九期生の高文寧さん（中国）、ノブル・ヴァレンタンさん（フランス）の四名である。

### 留学先に日本を選び、京大・公共政策大学院を志望した理由は何ですか。

陶「中国の大学で第二外国語が日本語でした。そして何より日本のアニメが好きで、日本に留学したいと思っていました。まずは、名古屋

柳「私は、もともとヨーロッパよりもアジアに興味があり、仕事のにもアジアに関わることが多かったので、留学制度が整っている日本に行きたいと思っていました。仕事が韓国の国家公務員でしたので、公共政策で修士を取りたいと思い、関連する大学を探していました。東京など他の地域の大学院も検討しましたが、受験期間が合わず、ソウルと街の雰囲気が似ていたため、日本の伝統文化が感じられる京都に行つて学ぶことを決めました。」

高「大学での専攻が日本語でした。大学の交換留学で、同志社大学に留学し、京都がとても好きになりました。将来は、国際NGO・開発機関などで働きたいと思っていて、京大公共政策を志望しました。」

ノブル「日本に興味を持ったのは、『NARUTO・ナルト』や『BLEACH』などのアニメの影響が大きいです。その後、日本の

伝統文化、政治社会に興味が生じ、本格的に日本に留学したいと思うようになりました。僕も、研究生として一橋大学、交換留学生として同志社大学に在籍していました。フランス自体の専攻が行政学で、一番学びたい科目が公共政策だったので、伝統的な雰囲気がある京大・公共政策を志望しました。」

### 入学後に感じた印象を率直に教えて下さい。

陶「全体から言うと、とても充実しています。授業面では、経済・政治・法律など幅広く、自分で勉強したいことが学べます。生活面でも、留学生と日本人ともに仲がいいです。」

高「私は授業が大変という印象があります。私は経済・金融のバックグラウンドがない中で、一から専門科目を学ぶのに苦労しています。ただ、周りの学生がレポート・試験への助言をくれて、とても助かっています。」

ノブル「全体的にとっても満足しています。授業自体も面白く、フランスで勉強していた内容と被ることもあります。日本の観点で学べて新鮮です。フランスでは特定の科目をより専門的に学ぶ授業が多いですが、日本の場合は『経済政策』、『公共政策論』のように全

体的な視点が身に着く科目が多く、新たな発見があります。

### 印象に残っている授業を教えてください。

高&陶『『国際法』、『国際行政制度』が印象に残っています。両方とも先生が知的で面白く、授業が毎回とても楽しいです。特に、国際的な課題、センシティブな領土問題などを日本の学生と議論するのは、日本人の考え方に触れ、とてもためになりました。また、国際感覚が豊富な先生だったので、実際に国際機関で働くという実務感覚も学ぶことができました。」

柳「必修科目の『公共政策論』が、私の視野を広げてくれました。専攻が異なる四人の先生のオムニバス形式の授業で、政治学・経済学・法学などの科目を複合的に学び、新しい視点を手にいれたと思います。」

### 将来の後輩（留学生）へのメッセージを！

陶&柳「いろんなバックグラウンドを持っている学生がいて、とても刺激的な毎日を送れると思います。一般学生、社会人、留学生の垣根も低く、皆と仲良く学べます。教務の方も留学生への対応が親切で、いつも感謝しています。」

ます。研究者・実務家の先生方もバランスがよく、理論と実践を意識して学ぶことができるので、おススメの大学院です！」

高「日本に来て、修士課程に在籍することは正直とても大変です。ですが、京大公共はチューターなど周りのサポートが充実していて、勉強に集中できるし、何より苦労した分、自分に返ってくるものは大きいです。私も今苦労していますが、その分、充実しているので、ぜひ一緒に学びましょう。」

ノブル「他の公共政策大学院に比べれば、絶対に京都が良いと思います。京都は過ごしやすく、キャンパスの雰囲気はとても落ち着いています。欧米人の人は、日本語がパーフェクトでなくても、ためらわず是非留学にチャレンジしてほしいです。将来的に日本、アジアで就職したいならば、修士課程はいいチャンスです。政策科学は欧米が有利という考えがありますが、京大のレベルは高いです。ここに入れば絶対、満足できると思います。」

### 取材後記

本大学院は留学生・社会人・一般選抜など学生のバックグラウンドは多岐に渡る。多様が

故に意見の相違もあるが、自由闊達に議論ができる環境が用意されている。本誌を読んで、将来、本大学院に新たな風を巻き起こす留学生が増えることに期待したい。

（文責 鈴木 悠）



留学生一同（左から柳さん、ノブルさん、高さん、陶さん）